

---

# 学生による地域活性化プログラム

---

## 平成23年度 活動報告書



平成24年3月

 長岡大学

## ごあいさつ



学長 原 陽一郎

「学生による地域活性化提案プログラム」は、学生に対して職業人としての基礎的能力を鍛える目的で18年度に一部のゼミで試験的に実施し、19年度から3、4年次ゼミの6割以上が参加する全学的な取組に発展しました。そして、19年度に文部科学省の「現代的な教育ニーズ取組支援プログラム」の「特に優れた取組（現代GP）」に選定され、特別補助金の交付対象になると共に大学教育改革合同フォーラムのポスターセッションで発表しました。

本格展開から5年、本プログラムは学生の職業人としての基礎的能力を鍛えるという点では予想以上の効果があることが明らかになってきました。そればかりではなく、学生グループの調査研究の結果や提言に対して長岡の行政や市民活動の関係者から思いもかけぬ高い評価と期待を頂いてきました。

昨年度から、名称を「学生による地域活性化プログラム」と変えました。提案に止まらず、自ら実行もするものにしてしようと考えたからです。

本年度も、プログラム推進委員会、地域連携アドバイザーの皆様方、ならびに、学生の調査にご協力頂いた市民の皆様のお陰で、8ゼミナール8取組の学生グループが調査研究の結果をまとめました。今年2月に行われた成果発表会では、市の責任者や市民団体の役員、さらに市議員や教育関係者、学生の家族や一般市民など約60人の方々に聞いて頂きました。

このプログラムは凶らずも人材育成と地域貢献を同時に行うという優れたもので、日経新聞社の全国大学地域貢献度ランキングで長岡大学が2年連続してベスト10に入りましたが、マスコミは長岡大学の地域貢献活動の中で、このプログラムにもっとも関心を持ってくれています。地域社会の課題を対象に学生グループが調査研究し提言する取組は他の大学にも少なくないのですが、必須のゼミとして全学的な取組で実際にたくさんの学生が参加している例は大変に珍しいようで、多くの大学からも問い合わせを頂きました。

皆さまのおかげで本プログラムは、地域社会に役立つ人材を育てる「人づくりと実学実践教育」という長岡大学の教育の特徴を象徴する中核的な取組に育ってきました。長岡大学の教育の目玉として、さらにレベルを上げて継続していきます。今後ともご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

平成24年3月

## 第1章 学生による地域活性化プログラムの概要

### 1.1 プログラムの位置づけ

本プログラムは、「平成19年度採択文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP） 学生による地域活性化提案プログラム－政策対応型専門人材の育成－（平成19年度～21年度）」（略して、地域活性化GP）を継続的に行う取組であるが、提案にとどまらず具体的な行動を学生が行うことによって、学生の社会人基礎力と地域貢献を目指すものである。

地域活性化GPは、長岡市の総合計画を題材に地域活性化提案を行うものであったが、本プログラムは「(財)山の暮らし再生機構の活動」や「NPO法人 長岡産業活性化協会（NAZE）との共同研究」など、広く中越地域や新潟県を対象とした取組である。また、活動は本学3、4年生のゼミを基本とするが、ゼミを越えたチーム・任意団体でも良い。

(注)「学生による地域活性化提案プログラム－政策対応型専門人材の育成－」については、本学ホームページ<http://www.nagaokauniv.ac.jp>ないし長岡大学ブックレット第16号『長岡大学教育プログラムVI 学生による地域活性化提案プログラム－政策対応型専門人材の育成－』を参照されたい。

### 1.2 プログラムの概要

#### (1) プログラムの内容

長岡市は三度にわたって11市町村で合併したが、新市として発展する上で様々な地域課題の解決に迫られている。また、地域主権の考えのもとに「新潟県と新潟市が合併する新潟州構想」や「長岡市人口40万人都市構想（平成22年の人口は28万人）」もあり、地域問題は益々広域化し、より独自の方向性の検討が期待されている。

本プログラムにおいては、学生グループが長岡地域や新潟県の課題を対象に実地に調査研究を行い地域活性化方策の提案・地域活性化の実践を行う。これによって、学生の社会人基礎力、企画・提案力の開発と地域活性化への貢献を同時に実現することを目的とする。

本プログラムの内容は、①問題解決型教育＝体験・参加型教育の実践として、②長岡地域および新潟県内、またより一般的に地域の課題（環境、福祉、市民生活、産業等）をゼミナール（3年次、4年次）のテーマとしてとりあげ、③ゼミナールの学生グループがテーマごとに設ける地域連携アドバイザー（市担当者、関係団体の職員等）との緊密な連携と専門教員の指導の下に、④専門知識とスキルを応用してフィールド調査等の作業を行い、⑤地域活性化に貢献するとともに、その活動を広報し、地域社会にフィードバックすることである。

#### (2) プログラムの趣旨・目的

長岡大学は地域の産業界のニーズに対応した「幅広い職業人」の育成を第一の使命として設立された。長岡大学の教育の基本は社会人基礎力とビジネス展開能力（企画力、提案力）の育成、ビジネスの現場に直結した専門的な知識とスキルの習得である。この考えを実現するため、地域の産業界との緊密な連携の下に実践的教育を展開する「産学融合型専門人材開発プログラム－長岡方式－」を確立した。

本プログラムは既に確立している長岡大学の教育プログラムをさらに発展させ、産業界だけでなく、まちづくりや生活環境の改善など地域社会のニーズにも貢献できる人材を育成することを第一の狙いとしている。長岡地域は、この7年の間に「7.13水害」、「中越大震災」、「豪雪」と多くの災害にみまわれてきた。そのような経験の中で、地域社会が必要とした人材は、自分で判断して行動できる実践力のある人材であった。本取組は、学生を地域が求めるこのような人材に育て上げることを目的としている。

### (3) 学生教育の目標、養成する人材像

本学の基本理念に対応して、長岡大学改革宣言（平成16年10月発表）において、本学の教育の目標を次のように掲げた。

地域社会、地域の企業と連携し、地域の産業界のニーズに直結した長岡大学独自の「ビジネス能力開発プログラム」を展開し、ビジネスを発展させるための企画を立て、提案し、実行させる能力と人間力のある人財を創造する。

さらに、学生に対して「毎日の学生生活で充実感を、レベルアップを確認して達成感を、卒業のときに4年間を振り返って満足感を」実感してもらうことを約束している。

本取組は、上記のような本学の教育の目標と学生に対するコミットメントを達成することと、本学の基本理念を具体的に実践することを目指した教育プログラムの一環である。

本プログラムは、産業界ばかりでなく、市民活動やNPO等の非営利的な活動をも含めて、地域社会と連携し、地域の活性化に貢献できる実践力のある人材育成を目指すものである。

### (4) 設定する学生教育の目標と養成する人材像のニーズ

本取組における学生教育の目標は、

- ① 社会人基礎力（アクション力、シンキング力、チームワーク力）を向上させること
- ② ビジネス展開能力（企画・提案力・実行力）を向上させること
- ③ 専門的技法に関するスキルを向上させること

である。

専門的技法として学習するものは、情報・データ収集技法（情報検索、インターネット活用）、統計分析技法（統計の読み方、表計算ソフトの応用）、社会調査技法（アンケート、インタビュー）、レポート作成法、プレゼンテーション技法などである。なお、専門的技法については「学生による地域活性化提案プログラム－政策対応型専門人材の育成－平成19年度活動報告書」（平成20年3月、長岡大学）を参照されたい。

上記の能力と技法を身につけ、実際に長岡地域の社会的問題に関わった学生は、地域社会が必要とする、自分で判断して行動できる実践力のある人材として歓迎されると考えている。

#### **(5) 目標を達成するための教育プログラム**

本プログラムは、ゼミナール（3,4年次）における問題解決型教育（Problem-based Learning、Project-based Learning、PBL）＝体験・参加型教育の実践により、学生の企画・提案力の向上を図ろうとするものである。プログラムは大きく、

- ① 実課題の設定（地域社会が実際に解決したいと考えている問題を理解した上で、取り組むべき実課題の設定を行う。）
- ② 参考になる情報やデータの収集（実課題に関係する調査報告、統計データ、論評、過去の経緯等を収集し要点を整理する。）
- ③ フィールド調査の実施（アンケート調査やヒアリング調査、市民活動への参加を通じて、市民や産業界が真に求める施策や地域が活性化するための方策を検討し実際に活動する。）
- ④ 報告書の作成と発表（調査検討を通じて得られた知見をもとに報告書の作成を行うとともに、行政当局、市民団体、企業等の関係者、市民に対して活動報告を行う。）

の4つのステップで構成されるが、課題の選択、活動の内容等によって具体的な方法は様々なものになる。それについては「4. 2 取組結果の概要」を参照されたい。

## 第2章 平成23年度取組の経過

### 2.1 本年度取組の経過

平成23年度の「学生による地域活性化プログラム」の主な実施経過は、次のとおりである。

<平成23年度取組の経過>

4月28日	平成23年度地域活性化プログラム参加ゼミ決定
5月12日	平成23年度第1回地域活性化プログラム運営委員会開催（以後、毎月1回開催）
6月9日	平成23年度第2回地域活性化プログラム運営委員会開催
7月7日	平成23年度第3回地域活性化プログラム運営委員会開催
7月21日	平成23年度第1回地域活性化プログラム推進協議会開催 於：長岡大学
9月8日	平成23年度第4回地域活性化プログラム運営委員会開催
10月12日	平成23年度第5回地域活性化プログラム運営委員会開催
10月29日 10月30日	悠久祭（大学祭）において、地域活性化プログラムの活動を紹介
11月10日	平成23年度第6回地域活性化プログラム運営委員会開催
11月26日	平成23年度第2回地域活性化プログラム推進協議会開催 中間成果発表会を同時開催 於：長岡大学大教室
12月15日	平成23年度第7回地域活性化プログラム運営委員会開催
1月26日	平成23年度第8回地域活性化プログラム運営委員会開催
2月16日	平成23年度第9回地域活性化プログラム運営委員会開催
2月25日	地域活性化プログラム平成23年度成果発表会開催 於：ホテルニューオータニ長岡 NCホール
3月15日	平成23年度第3回地域活性化プログラム推進協議会開催 於：長岡大学



## 2.2 平成 23 年度の学生による地域活性化プログラム取組ゼミ

本年度は 8 ゼミ 8 取組が実施された（一部の取組は他ゼミのメンバーと協働で実施されたものもある）。各取組の活動報告については「4.2 取組結果の概要」を、学生が作成した成果報告については「第Ⅱ部 学生による活動報告」を参照されたい。

<取組ゼミとテーマ>

ゼミ名	テ ー マ
高橋 治道 ゼミ	地域の資産を生かした絆づくり —地域の魅力再発見—
鯉江 康正 ゼミ	越後長岡まちの駅の情報発信と地域づくりへの意識変化の検証
広田 秀樹ゼミ	グラスルーツグローバリゼーション —草の根・地域からの地球一体化推進—
吉盛 一郎 ゼミ	環境教育とエコツーリズム —環境 NPO 立ち上げとエコツアーから学ぶ—
菊池 いづみゼミ	セーフコミュニティへの出発 —いのちを大切にするまちづくり—
原田 誠司 ゼミ	企業の情報発信とホームページの役割（コンテンツ診断）
村山 光博 ゼミ	企業の情報発信とホームページの役割（システム診断）
田邊 正 ゼミ	新潟県内企業における経営財務診断 —食料品業界二社の経営財務診断—

（注）ゼミの順序は、成果発表会発表順および「第Ⅱ部 学生による活動報告」の掲載順である。



## 2.3 平成23年度の推進体制

平成23年度の『学生による地域活性化プログラム』の推進体制は、次のとおりである。

### <総合アドバイザー>

所 属	職 名	氏 名
長岡市市長政策室政策企画課	課長	渡辺 則道
株式会社ホクギン経済研究所	副所長	河田 博

### <地域連携アドバイザー>

所 属	職 名	氏 名
福祉保健部長寿はつらつ課	主査	若月 恵子
長岡市地域包括支援センターなかじま	センター長	丸山 千代子
市民協働部市民センター	主任	木村 圭介
まちの駅もてなし家	駅長	山田 勝
ながおか生活情報交流ねっと	理事長	桑原 眞二
神谷地区	区長	白井 湛
金井会計事務所	所長	金井 助智
中小企業診断士中村公哉事務所	所長	中村 公哉
NPO法人長岡産業活性化協会NAZE	情報化コーディネーター	杉浦 聡
市民協働部国際交流課	主任	大隅 一
国際交流センター	スタッフ	十見 智子
環境部環境政策課	総括主査	酒井 億

### <学内推進委員>

学 長	原 陽一郎	ゼミ担当教員	広田 秀樹
運営委員長	鯉江 康正 (ゼミ担当)		菊池 いづみ
ゼミ担当教員	原田 誠司		村山 光博
	高橋 治道		田邊 正
	吉盛 一郎		



### 第3章 本取組における学生教育の評価

地域活性化プログラムにおける学生教育の目標は、

- ① 社会人基礎力（アクション力、シンキング力、チームワーク力）を向上させること
- ② ビジネス展開能力（企画・提案力・実行力）を向上させること
- ③ 専門的技法に関するスキルを向上させること

である。

#### 3.1 社会人基礎力の評価

社会人基礎力が伸びたかどうかについては、学生に「社会人基礎力診断シート（学生用）アンケート」（参考資料4）を実施した。また、プログラム推進協議会の構成員であるゼミ担当教員には、同様の「社会人基礎力診断シート（教員用）アンケート」（参考資料5）を実施した。

アンケートは、取組に参加した学生一人一人を対象に、社会人基礎力の変化を評価する形で実施した。したがって、学生は自己評価（有効回収数104）であり、教員は各ゼミ学生についての評価である。

##### (1) アクション力の評価

アクション力に関する指標は、[主体性]、[働きかけ力]、[実行力]である。

###### ① 主体性

取組に「1. 進んで取り組んだ」と答えている学生は44.2%で、教員評価では53.2%となっている。学生と教員の評価を比較すると、教員の評価の方が9ポイント高くなっている。

Q1. [主体性] あなた（この学生）は、進んで取り組みましたか。

	1. 進んで取り組んだ	2. あまり進んで取り組めなかった	3. 取り組めなかった	合計
学生	46	54	4	104
教員	58	45	6	109
学生	44.2%	51.9%	3.8%	100.0%
教員	53.2%	41.3%	5.5%	100.0%



## ② 働きかけ力

取組の実施にあたって他の人に積極的に働きかけたかどうかについては、「1. 積極的に働きかけた」と回答している学生が30.8%で、教員が33.9%となっている。学生と教員の評価を比較すると、3ポイントほど教員の方が高くなっている。「2. あまり働きかけられなかった」と回答している学生は55.8%で、教員の評価では57.8%となっている。

[働きかけ力]は、[主体性]や[実行力]に比較して「1. 積極的に働きかけた」学生がやや少なく、まじめで、こつこつと取組には参加するが、リーダーシップを発揮できる学生が少ない結果となっている。

Q2. [働きかけ力] あなたは、取組の実施にあたって他の人に働きかけましたか。

	1. 積極的に働きかけた	2. あまり働きかけられなかった	3. ほとんど働きかけなかった	無回答	合計
学生	32	58	13	1	104
教員	37	63	9	0	109
学生	30.8%	55.8%	12.5%	1.0%	100.0%
教員	33.9%	57.8%	8.3%	0.0%	100.0%

## ③ 実行力

取組にあたって確実に実行できたかどうかについては、「1. 確実に実行できた」と回答している学生が46.2%で、教員が60.6%と、この設問では教員の評価の方が非常に高く、学生の評価を14ポイントほど上回っている。「2. あまり実行できなかった」と回答している学生は47.1%で、教員の評価では33.9%となっている。実際の活動状況から判断すると、学生は取組の過程でつまずきながら進んでいるので、評価が厳しくなっている可能性がある。

Q3. [実行力] あなたは、取組を確実に実行できましたか。

	1. 確実に実行できた	2. あまり実行できなかった	3. ほとんど実行できなかった	無回答	合計
学生	48	49	6	1	104
教員	66	37	6	0	109
学生	46.2%	47.1%	5.8%	1.0%	100.0%
教員	60.6%	33.9%	5.5%	0.0%	100.0%



#### ④ アクション力

取組前と比較して、アクション力が「1. 上昇した」と回答している学生は54.8%で、教員は50.5%とアクション力の総合評価でも上昇した学生が多いことが分かる。

個別の評価項目（主体性、働きかけ力、実行力）よりも「1. 上昇した」と回答している割合が高くなっており、学生は総合的には成長を実感しているものと思われる。

Q4. 取組前と比較して、アクション力は、上昇したと思いますか。

	1. 上昇した	2. あまり上昇しなかった	3. ほとんど変化がなかった	無回答	合計
学生	57	38	8	1	104
教員	55	44	10	0	109
学生	54.8%	36.5%	7.7%	1.0%	100.0%
教員	50.5%	40.4%	9.2%	0.0%	100.0%

## (2) シンキング力の評価

シンキング力に関する評価項目は、[課題発見力]、[計画力]、[創造力]である。

### ① 課題発見力

課題を「1. 明らかにできた」と回答している学生は41.3%であった。教員評価では45.9%となっている。この項目については教員評価の方が5ポイントほど高い結果となっている。課題を発見することは取組の正否にとって重要であるが、初めて取組に参加する3年生は苦勞していたようであるが、本プログラムも5年目を迎え、過年度の取組を活かしつつ何をすべきかを考えられている4年生も多くみられた。

Q5. [課題発見力] あなたは、課題を明らかにできましたか。

	1. 明らかにできた	2. あまり明らかにできなかった	3. ほとんど明らかにできなかった	無回答	合計
学生	43	50	9	2	104
教員	50	48	11	0	109
学生	41.3%	48.1%	8.7%	1.9%	100.0%
教員	45.9%	44.0%	10.1%	0.0%	100.0%



## ② 計画力

課題解決の準備については、「1. 準備できた」と回答している学生が29.8%で、教員評価では41.3%となっている。本学の学生の場合、言われたことはやるが、自分から進んで計画し実行する力が弱い傾向がある。この傾向は本学のみならず、今の若者の特徴でもあると思われるが、次の指標の〔創造力〕同様、自分自身で考える能力の訓練が望まれる。

このような取組の経験が無いか少ない学生が多く、自己評価が低くなっている可能性がある。教員の場合、毎年取組をみてきているわけで、例年並みという評価が主流であると思われる。ちなみに、昨年度の教員評価では「1. 準備できた」の割合は37.9%であった。

Q 6. [計画力] あなたは、課題解決の準備ができましたか。

	1. 準備できた	2. あまり準備できなかった	3. ほとんど準備できなかった	合計
学生	31	66	7	104
教員	45	53	11	109
学生	29.8%	63.5%	6.7%	100.0%
教員	41.3%	48.6%	10.1%	100.0%

## ③ 創造力

新しいアイデアを出せたかという質問に対して、「1. 十分出せた」と回答している学生の割合は19.2%と極端に低い結果となっている。それに対して、教員側の評価では、31.2%の学生が「1. 十分出せた」という結果になっている。取組検討段階で、実際には多くの学生がいくつかのアイデアを出せているが、実行に移そうという段になって臆してしまう面が見られる。この点は、昨年度も見られた傾向であり、自分が出しているアイデアをなかなか実行に移せないことが影響しているように思われる。

Q 7. [創造力] あなたは、新しいアイデアを出せましたか。

	1. 十分出せた	2. あまり出せなかった	3. ほとんど出せなかった	無回答	合計
学生	20	70	12	2	104
教員	34	59	16	0	109
学生	19.2%	67.3%	11.5%	1.9%	100.0%
教員	31.2%	54.1%	14.7%	0.0%	100.0%



#### ④ シンキング力

取組前と比較してシンキング力が向上したかどうかについては、「1. 上昇した」と回答している学生は46.2%で、参加学生全体の半数近くが、シンキング力が上昇したと考えている。教員評価では44.0%となっている。「3. ほとんど変化がなかった」と回答している学生は7.7%で、教員評価では11.9%である。

この結果から、本取組は個人の感じ方もあるが、少なくともプラスに働いていると思われる。「アクション力」同様、「シンキング力」でも総合評価では成長がみられている。

Q 8. 取組前と比較して、シンキング力（課題発見力、計画力、創造力）は、  
上昇したと思いますか。

	1. 上昇した	2. あまり上昇しなかった	3. ほとんど変化がなかった	無回答	合計
学生	48	47	8	1	104
教員	48	48	13	0	109
学生	46.2%	45.2%	7.7%	1.0%	100.0%
教員	44.0%	44.0%	11.9%	0.0%	100.0%

### (3) チームワーク力の評価

チームワーク力に関する指標は、[発信力]、[傾聴力]、[柔軟性]、[状況把握力]、[規律性]、[ストレスコントロール力]である。

#### ① 発信力

自分の意見を相手に伝えられたかどうかについて、「1. 十分伝えられた」と回答している学生の割合は39.4%で、教員評価では45.0%となっており、教員評価の方が5.6ポイント高くなっている。

「2. あまり伝えられなかった」、「3. ほとんど伝えられなかった」をあわせると学生の割合は60.5%、教員評価では55.0%であり、積極性の無い学生もみられる。本学の場合、ゼミは必修であるため、内向的な学生が約6割と考えれば、妥当な評価かもしれない。

Q 9. [発信力] あなたは、自分の意見を相手に伝えられましたか。

	1. 十分伝えられた	2. あまり伝えられなかった	3. ほとんど伝えられなかった	合計
学生	41	56	7	104
教員	49	53	7	109
学生	39.4%	53.8%	6.7%	100.0%
教員	45.0%	48.6%	6.4%	100.0%

## ② 傾聴力

相手の意見を聞けたかどうかの傾聴力については、「1. 十分聞けた」と回答している学生の割合は76.0%で、教員評価では74.3%と非常に高くなっている。

「発信力」は低い、「傾聴力」は高いという傾向は毎年同じである。

Q10. [傾聴力] あなたは、相手の意見を聞けましたか。

	1. 十分聞けた	2. あまり聞けなかった	3. ほとんど聞けなかった	合計
学生	79	22	3	104
教員	81	24	4	109
学生	76.0%	21.2%	2.9%	100.0%
教員	74.3%	22.0%	3.7%	100.0%

## ③ 柔軟性

意見の違いなどを理解したかどうかについては、「1. 十分理解した」と回答している学生の割合が65.4%、教員評価では79.8%となっている。教員評価の方が14.4ポイントも高くなっている。取組の継続により活発な意見交換がなされているゼミも多く、過年度との比較で教員評価が高くなっている可能性がある。教員評価では昨年度よりも10ポイント程度上昇している。

Q11. [柔軟性] あなたは、意見の違いなどを理解しましたか。

	1. 十分理解した	2. あまり理解しなかった	3. ほとんど理解しなかった	合計
学生	68	34	2	104
教員	87	18	4	109
学生	65.4%	32.7%	1.9%	100.0%
教員	79.8%	16.5%	3.7%	100.0%

## ④ 状況把握力

周囲の人や物事との関係をよく理解したかという質問に対しては、「1. 十分理解した」と回答している学生の割合は37.5%で、教員評価では53.2%となっている。

また、「2. 一定に理解した」を加えると、学生の自己評価では93.3%が、教員評価では94.5%となっている。ここでも、取組の継続により、学生の活動への意識向上が見られる。

Q12. [状況把握力] あなたは、周囲の人や物事との関係を良く理解しましたか。

	1. 十分理解した	2. 一定に理解した	3. ほとんど理解しなかった	無回答	合計
学生	39	58	6	1	104
教員	58	45	6	0	109
学生	37.5%	55.8%	5.8%	1.0%	100.0%
教員	53.2%	41.3%	5.5%	0.0%	100.0%

⑤ 規律性

ルールや約束を守ったかどうかについては、「1. 守った」と回答している学生の割合が82.7%で、教員評価では83.5%となっている。繰り返しになるが、取組の継続により、外部の人とのアポイントの重要性が十分に理解されてきていると思われる。また、学生同士の話し合い（学生自身によるサブゼミ）も多く実施されていた。

Q 13. [規律性] あなたは、ルールや約束を守りましたか。

	1. 守った	2. あまり守れなかった	合計
学生	86	18	104
教員	91	18	109
学生	82.7%	17.3%	100.0%
教員	83.5%	16.5%	100.0%

⑥ ストレスコントロール力

ストレスをうまく解消できたかという質問に対して「1. うまく解消できた」と回答している学生の割合は65.4%で、教員評価の76.1%を10.7ポイント下回っている。取組において多くの学生は悩みながら活動しているので、それを克服できなかつたと感じているようである。

Q 14. [ストレスコントロール力] あなたは、ストレスをうまく解消できましたか。

	1. うまく解消できた	2. あまり解消できなかった	合計
学生	68	36	104
教員	83	26	109
学生	65.4%	34.6%	100.0%
教員	76.1%	23.9%	100.0%

⑦ チームワーク力

取組前と比較して、チームワーク力が上昇したかどうかについては、学生の59.6%が「1. 上昇した」と回答している。教員評価では64.2%となっており、それなりにチームワーク力は上昇したと考えられる。

学生が中心となって活動をすればするほど、ある意味では学生同士がぶつかることもあり、単なる仲良しグループというわけにはいかなくなるので、評価が難しいところでもあろう。

Q 15. 取組前と比較して、チームワーク力は、上昇したと思いますか。

	1. 上昇した	2. あまり上昇しなかった	3. ほとんど変化がなかった	合計
学生	62	35	7	104
教員	70	27	12	109
学生	59.6%	33.7%	6.7%	100.0%
教員	64.2%	24.8%	11.0%	100.0%

#### (4) 3つの社会人基礎力の比較

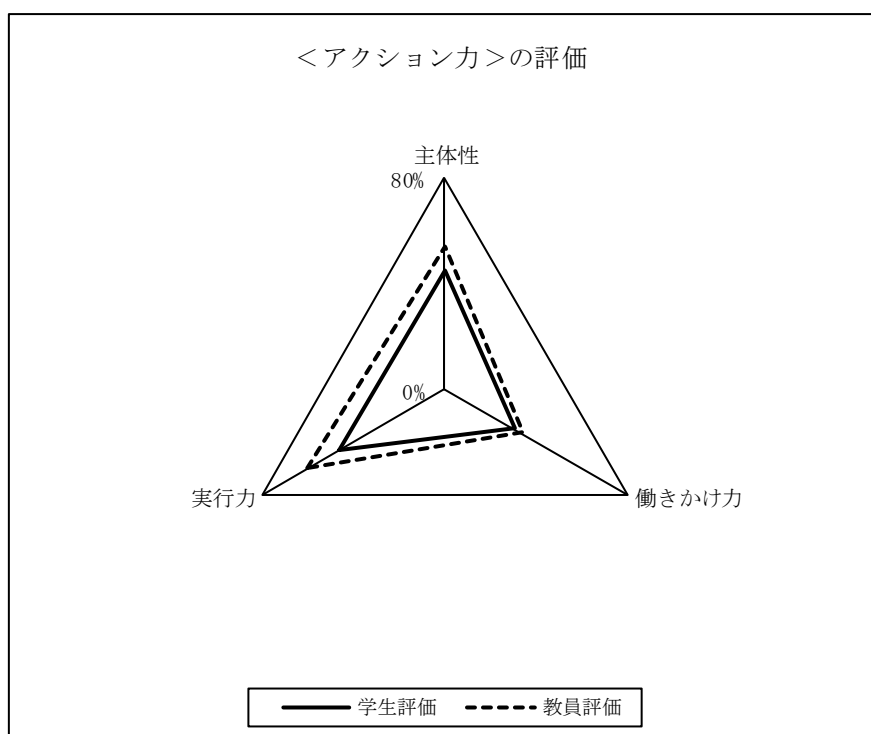
以上3つの社会人基礎力の評価結果を図示すると、次のとおりである。

##### ① アクション力

アクション力では、働きかけ力の評価が、学生、教員ともに低くなっている。

アクション力の3つの指標を比較すると、やはり言われたことはするが、主体性は弱く、働きかける力はそれ以上に弱いという結果となっている。今後どうやって積極性をつけさせていくかが課題として残っている。

<アクション力>の評価		学生評価	教員評価
主体性	進んで取り組んだ学生の割合	44.2%	53.2%
働きかけ力	積極的に働きかけた学生の割合	30.8%	33.9%
実行力	確実に実行できた学生の割合	46.2%	60.6%



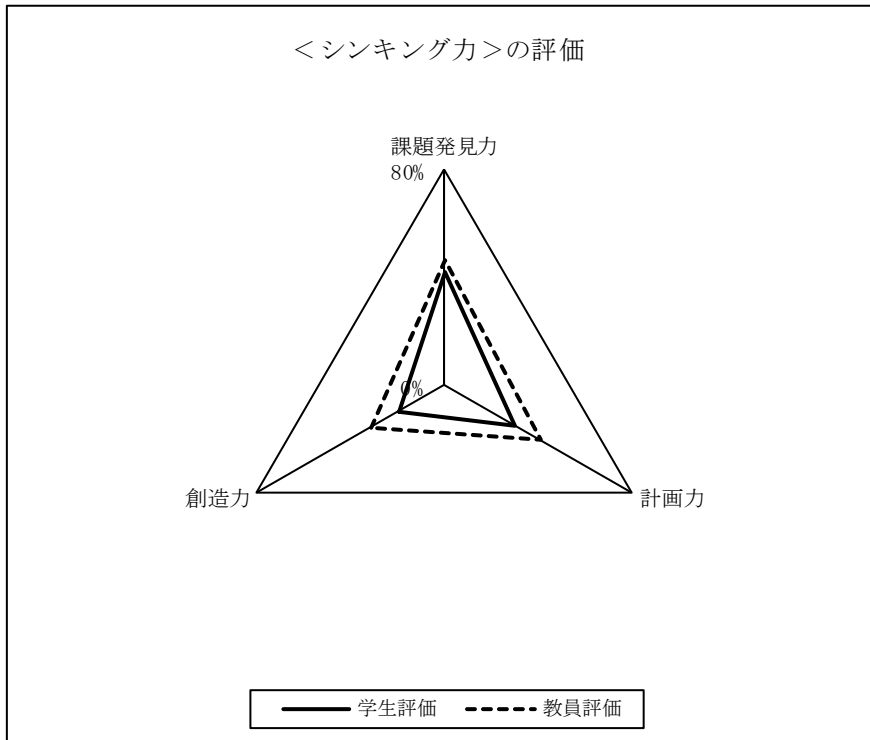


② シンキング力

学生の自己評価の場合、課題は見つげられたが、自分で計画して課題に立ち向かい、課題解決ができた学生は残念ながら少ないということになる。とりわけ、学生の自己評価では創造力が著しく低くなっている。これに対して、教員評価では必ずしも低くはない。学生の場合、自己評価では絶対評価に近い可能性があるが、教員の場合、この取組にまだ参加していない1、2年生や取組に参加していないゼミの3、4年も見ているわけで、総合的（相対的に）に判断すれば、評価が高いことになっていると思われる。

学生が自己評価で厳しい評価をしていることは、その学生にとって成長への原動力になるものと思われる。

<シンキング力>の評価		学生評価	教員評価
課題発見力	明らかにできた学生の割合	41.3%	45.9%
計画力	準備できた学生の割合	29.8%	41.3%
創造力	十分出せた学生の割合	19.2%	31.2%

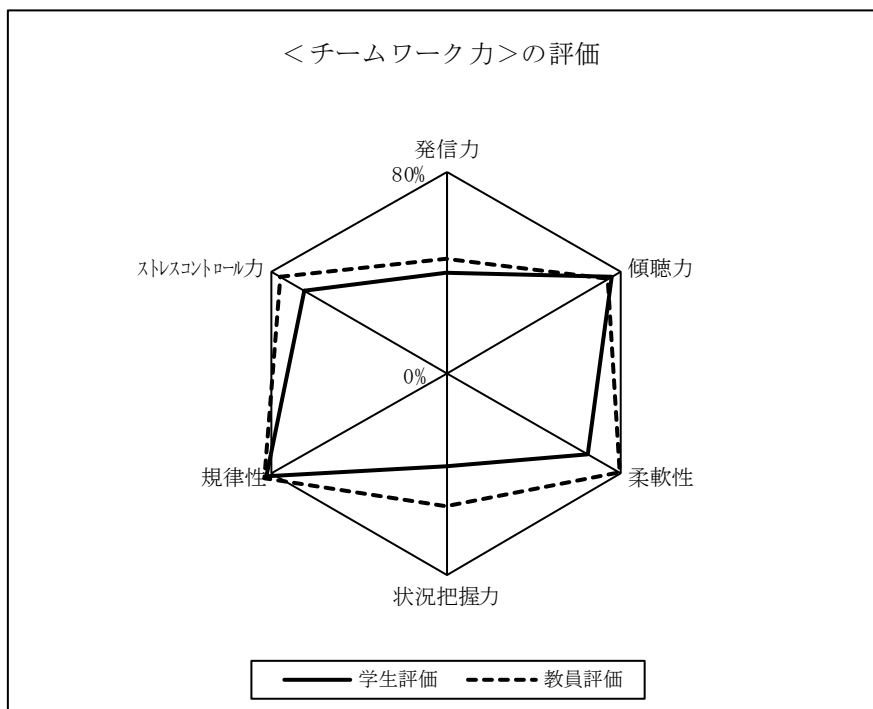


### ③ チームワーク力

チームワーク力は、「アクション力」や「シンキング力」よりも総合的に高い評価となっている。個別にみると、柔軟性とストレスコントロール力で、教員評価が高くなっている。

学生の自己評価も同様であるが、教員の評価が発信力と状況把握力が低い点は、今後指導を強めていく必要があるだろう。

<チームワーク力>の評価		学生評価	教員評価
発信力	十分伝えられた学生の割合	39.4%	45.0%
傾聴力	十分聞いた学生の割合	76.0%	74.3%
柔軟性	十分理解した学生の割合	65.4%	79.8%
状況把握力	十分理解した学生の割合	37.5%	53.2%
規律性	守った学生の割合	82.7%	83.5%
ストレスコントロール力	うまく解消できた学生の割合	65.4%	76.1%

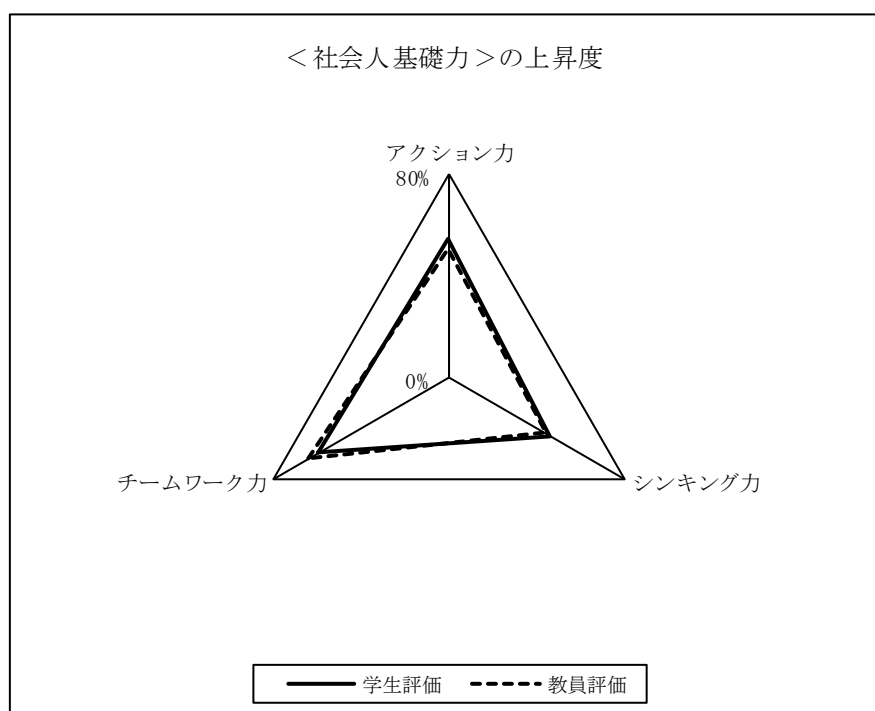


④ 社会人基礎力の上昇度

3つの社会人基礎力の上昇度（取組前と取組後の比較）は、学生の自己評価と教員評価の間に多少のずれはあるが、概ね相関している。

上述の通り総合評価でもシンキング力の上昇度合いが低く、今後の課題として検討していく必要がある。この数値が高いか低いかは評価が分かれるところであろうが、1つの講義で学生の社会人基礎力がこれだけの伸びるということはあまり考えられず、プログラムとしては一応の成功がみられるのではなかろうか。

<社会人基礎力>の上昇度		学生評価	教員評価
アクション力	上昇した学生の割合	54.8%	50.5%
シンキング力	上昇した学生の割合	46.2%	44.0%
チームワーク力	上昇した学生の割合	59.6%	64.2%



### 3.2 ビジネス展開能力の評価

ビジネス展開能力（企画、提案）については、『成果発表会』において、参加者（地域連携アドバイザー、一般参加者、本学学生、本学教職員）に対して、「地域活性化プログラム成果発表会意見シート（参考資料6）」にて、取組の評価等をいただいた。

意見シートは、参加者 178 名に対して、115 名回収できた。回収率は 64.6%である。当日は以下の 8 取組の発表がなされた。

#### <取組ゼミとテーマ>

ゼミ名	テ　　マ
高橋 治道 ゼミ	地域の資産を生かした絆づくり —地域の魅力再発見—
鯉江 康正 ゼミ	越後長岡まちの駅の情報発信と地域づくりへの意識変化の検証
広田 秀樹ゼミ	グラスルーツグローバリゼーション —草の根・地域からの地球一体化推進—
吉盛 一郎 ゼミ	環境教育とエコツーリズム —環境 NPO 立ち上げとエコツアーから学ぶ—
菊池 いづみゼミ	セーフコミュニティへの出発 —いのちを大切にするまちづくり—
原田 誠司 ゼミ	企業の情報発信とホームページの役割（コンテンツ診断）
村山 光博 ゼミ	企業の情報発信とホームページの役割（システム診断）
田邊 正 ゼミ	新潟県内企業における経営財務診断 —食料品業界二社の経営財務診断—



## (1) 取組テーマ（タイトル）と内容の合致

取組テーマ（タイトル）と内容の合致については、「1. 合致していた」との回答が全体で90.1%であった。活動を進めるなかで活動の範囲や方向性が変わった取組もあったようであるが、タイトルは非常に重要であり、この点は担当教員が指導していくことが望まれる。

Q 1 取組テーマ（タイトル）と内容は合致しておりましたか。							
		1. 合致していた	2. あまり合致していなかった	3. 合致していなかった	小計	無回答	合計
実数	アドバイザー	92	9	1	102	2	104
	一般参加者	136	25	2	163	45	208
	本学学生	444	37	2	483	29	512
	本学教職員	85	7	0	92	4	96
	合計	757	78	5	840	80	920
構成比 (%)	アドバイザー	90.2	8.8	1.0	100.0		
	一般参加者	83.4	15.3	1.2	100.0		
	本学学生	91.9	7.7	0.4	100.0		
	本学教職員	92.4	7.6	0.0	100.0		
	合計	90.1	9.3	0.6	100.0		

## (2) 取組に対する参加者の興味

各取組への興味については、「1. 興味がある」という回答は、全体で63.2%であった。興味を持てるかどうかは、扱う内容によるが、地域の課題を解決することを目的とした取組である以上、無意味な取組は無いわけで、この設問自体意味がないかもしれない。ただし、本学学生の興味の度合いが低い(49.7%)ことは問題であろう。学生がこれから社会に出て行く上で、多くの事柄に興味を持つことを期待したい。

Q 2 この取組に興味をもてましたか。						
		1. 興味がある	2. どちらかといえ ば、興味がない	小計	無回答	合計
実数	アドバイザー	78	24	102	2	104
	一般参加者	134	28	162	46	208
	本学学生	240	243	483	29	512
	本学教職員	79	14	93	3	96
	合計	531	309	840	80	920
構成比 (%)	アドバイザー	76.5	23.5	100.0		
	一般参加者	82.7	17.3	100.0		
	本学学生	49.7	50.3	100.0		
	本学教職員	84.9	15.1	100.0		
	合計	63.2	36.8	100.0		

### (3) 発表の仕方

発表については、「1. 非常に優れていた」が23.3%、「2. 優れていた」が55.4%で、この評価はかなり厳しいものではあるが、多くの学生が、壇上で一般市民をも含めた方々の前での発表は初めての経験であり、一応の評価はできるものと思われる。

プログラムも地域活性化G Pの取組から通算すると5年目であり、学生の間には何とかするだろうという雰囲気を感じられないこともない。自分たちの一年間の活動成果を発表することによって、地域貢献をしていくという意味を指導していく必要がある。

Q3 発表の仕方はどう感じましたか。		1. 非常に優れていた	2. 優れていた	3. やや問題あり	4. 問題外	小計	無回答	合計
実数	アドバイザー	34	48	18	1	101	3	104
	一般参加者	47	75	38	4	164	44	208
	本学学生	97	299	81	6	483	29	512
	本学教職員	18	43	30	1	92	4	96
	合計	196	465	167	12	840	80	920
構成比 (%)	アドバイザー	33.7	47.5	17.8	1.0	100.0		
	一般参加者	28.7	45.7	23.2	2.4	100.0		
	本学学生	20.1	61.9	16.8	1.2	100.0		
	本学教職員	19.6	46.7	32.6	1.1	100.0		
	合計	23.3	55.4	19.9	1.4	100.0		

### (4) 取組の評価

取組の評価については、「1. 非常に素晴らしい」が17.9%であった。また、「2. 素晴らしい」まで加えると76.0%でそれなりに取組が評価されていることがわかる。本学学生についてみると両者の合計は74.2%であり、興味を聞いた質問よりも24.5ポイントも増加している。この結果からも、シンポジウム等への参加機会や学生間の交流機会を増やしていくことが、学生の興味を引き起こし、社会人基礎力を向上させたり、ビジネス展開能力を養成するために必要であると思われる。

Q4 学生の取組としてどのように評価できますか。感想をお聞かせください。		1. 非常に素晴らしい	2. 素晴らしい	3. やや物足りない	4. 大学生のレベルに達していない	小計	無回答	合計
実数	アドバイザー	23	55	20	2	100	4	104
	一般参加者	37	99	23	4	163	45	208
	本学学生	77	282	111	14	484	28	512
	本学教職員	13	52	27	1	93	3	96
	合計	150	488	181	21	840	80	920
構成比 (%)	アドバイザー	23.0	55.0	20.0	2.0	100.0		
	一般参加者	22.7	60.7	14.1	2.5	100.0		
	本学学生	15.9	58.3	22.9	2.9	100.0		
	本学教職員	14.0	55.9	29.0	1.1	100.0		
	合計	17.9	58.1	21.5	2.5	100.0		

## 第4章 取組結果のまとめ

平成23年度長岡大学「学生による地域活性化プログラム」のまとめとして、取組成果と今後の課題、各取組の概要を整理しておく。なお、各取組の詳細な内容は「第Ⅱ部 学生による活動報告」を参照されたい。

### 4.1 取組成果と今後の課題

本プログラムは学生の社会人基礎力、企画・提案力の開発と地域活性化への貢献を目指すものである。ここで本年度の成果と今後の課題を簡単にまとめておく。

- ①取組に熱心に参加した学生については、社会人基礎力のうち、アクション力とチームワーク力はかなり向上したと思われる。また、シンキング力については、その成長度合いが他の2つの「力」よりも低かったものの、提案（地域活性化GPの主たる目的）から実際の活動にウエイトを変えたことにより、自分たちで考えて行動する力の成長は数値以上にみられた。
- ②専門的技法の活用能力についても、活動の中心となっている学生は真剣で成長がみられたが、基礎調査や情報処理が苦手な学生もおり、彼らをどのようにして取組に積極的に参加させ能力アップを図っていくかの方策の検討が必要であろう。
- ③地域活性化への貢献については、アンケートやヒアリングの実施、地域イベントへの参加、ボランティア活動への参加を通して、かなり満足のいく結果が得られていると感じている。また、今年度の成果としては、取組5年目のゼミも多く、学生が調査の進め方をかなり身につけてきている点あげられる。しかしながら、非常に積極的に地域に入り込み活動していく学生がいる一方で、自主性という点についてはまだまだ足りない面も見られる学生がいることは事実である。大学である以上、4年生は卒業していくことになるので、3年生が次の3年生にどう活動を伝えていくかが重要なポイントになると思われる。
- ⑤一部のゼミでは次年度の活動について議論を始めており、実際に街へ出て活動しようという機運も見られる。次年度以降も学内予算で取組が継続されるため、地域社会からの応援をお願いしたい。1年間お世話になった皆様、ありがとうございました。今後とも、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

## 4.2 取組結果の概要

以下、本年度の取組結果の概要をパネルで紹介して、第 I 部のまとめとしたい。

ゼミ名	テ　　マ
高橋 治道 ゼミ	地域の資産を生かした絆づくり —地域の魅力再発見—
鯉江 康正 ゼミ	越後長岡まちの駅の情報発信と地域づくりへの意識変化の検証
広田 秀樹ゼミ	グラスルーツグローバリゼーション —草の根・地域からの地球一体化推進—
吉盛 一郎 ゼミ	環境教育とエコツーリズム —環境 NPO 立ち上げとエコツアーから学ぶ—
菊池 いづみゼミ	セーフコミュニティへの出発 —いのちを大切にするまちづくり—
原田 誠司 ゼミ	企業の情報発信とホームページの役割（コンテンツ診断）
村山 光博 ゼミ	企業の情報発信とホームページの役割（システム診断）
田邊 正 ゼミ	新潟県内企業における経営財務診断 —食料品業界二社の経営財務診断—



平成23年度 活動報告

地域の資産を生かした絆づくり  
—地域の魅力再発見—



ゼミ教員

高橋 治道 教授

ゼミ学生名

4年生：石田 美希 板垣 友祐 近藤 翔 榎谷 貴広 渡邊 尚史 入沢 直輝

3年生：畔上 早樹 五十嵐 秀也 斎藤 美如 坂口 智大 土橋 里美 鳥部 健斗 南雲 顕滋  
丸山 諒 山口 祐貴

取組みの目的

- 歴史的建造物であり、産業遺産でもある旧神谷信用組合の建物を直売所とした地域活性化策を考える。今年度は、販売する物産品や販売方法、交流のための設備や態勢を検討する（4年生）。
- ◆神谷地区に残る建造物や伝統文化などの歴史的遺産をまとめた「神谷情報マップ」を通して、地域の魅力を住民から再発見・再認識してもらうとともに、次の世代に伝承してゆく（3年生）。

研究の意義

歴史的建造物や伝統文化などの地域が持つ資産の魅力を再発見・再認識させ、活用する方策を提示することにより、そこで暮らす人同士や訪れる人との絆深め、コミュニティを活性化させる方策を考える。

主な分析結果

- 直売所に関する住民アンケート実施により、60%の人が直売所利用に賛成であるが、直売所にするまでの費用、維持費、管理費等の費用を心配する声が強くなった。ヒアリングからは、直売所として利用するにあたり、①費用・コストの見積もり ②商品の確保（生産者の契約、取扱商品について） ③従業員の確保 ④他の直売所との差別化、の四点が必要であることが明らかとなった。
- ◆地域が持つ魅力再発見では、多数回にわたる現地調査と地区行事と資料調査から、多くの魅力を見つけ出し、「神谷情報マップ」としてまとめ、地域住民に配布した。地域住民へのアンケート調査では、地域の魅力を再発見できたとの回答を大多数の人から得た。神谷地区が新潟県チューリップ発祥の地であることを地区住民に周知できた。



提案

現地調査と地区行事に参加することにより、神谷地区には数多くの歴史的建造物や文化的資産が存在し、地域発展に貢献した多くの人物を輩出していることが明らかになった。これらを地域の魅力としてまとめ、住民みんなの共有財産とするために「神谷情報マップ」を作成し、神谷地区の全世帯に配布した。



研究の枠組みと方法

下記の研究課題に4年生と3年生がそれぞれ取り組むことにより、地域の資産を生かした活性化を明らかにする。

●4年生

地域に残る歴史的建造物を活用することにより、地域コミュニティの活性化と歴史的建造物の保存という二つの課題を解決する方策を、先行する成功施設へのヒアリング調査と住民への意識調査を通して明らかにする。

◆3年生

住民の間の世代間を超えた絆を強めるとともに、地域に対する誇りと郷土愛を醸成させるために、地域に残る資産を再発見し、地域の共有財産として再認識するための方策を、現地調査と地区行事への参加、住民に対する意識調査を通して明らかにする。

調査の枠組み

- 昨年度提案した旧神谷信用組合の建物を直売所案の具体化のために、地域の農産物や民芸品などを販売して多くの客を集めている道の駅「あぐりの里」へヒアリングを行い、直売所の運営に必要な事柄を明らかにする。また、神谷地区の全戸配布によるアンケート調査を行い、直売所開設に対する意識調査を行う。
- ◆神谷地区の歴史的建造物や遺産、偉人などを明らかにし、情報マップにまとめるため、神谷地区と周辺地域への現地調査、ヒアリング調査、地区行事への参加、資料調査を行う。調査の成果を基に、学生の視点でみた神谷の魅力を「神谷情報マップ」としてまとめ、提供する。

調査の概要

- 道の駅「あぐりの里」へのヒアリングを7月26日に実施した。
- 11月末から12月初めにかけて「直売所開設に関するアンケート調査」を神谷地区の全戸（180戸）に対して行い、51戸から回収を得た。
- ◆5回の現地調査、3回のヒアリング調査、6回の地区行事への参加、資料調査を行い、神谷地区の魅力と遺産をまとめ、「神谷情報マップ」としてまとめた。
- ◆作成したマップに対するアンケート調査を全戸に行い、25枚の回答を得た。



平成23年度 活動報告

越後長岡まちの駅の情報発信と  
地域づくりへの意識変化の検証

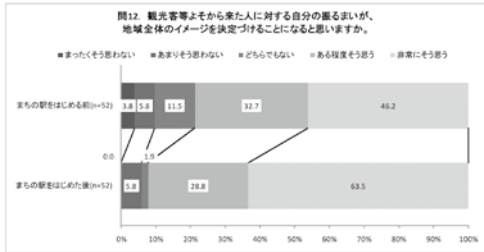
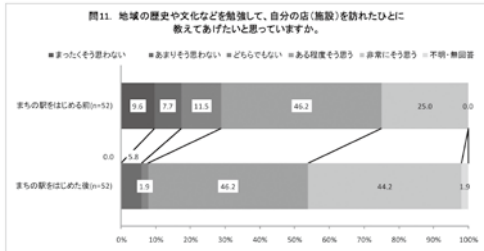


ゼミ教員  
鯉江 康正 教授

ゼミ学生名  
4年生：大平 卓弥 小嶋 さやか 粉川 大樹 小林 薫 関根 絢也 竹内 祐輝 中嶋 真悠美  
中山 佳之 南雲 涼  
3年生：浅井 将太 大平 雅史 賀 容 胡 黎 陳 琴 彭 丹 刘 梁 渡邊 直斗

取組みの目的

越後長岡まちの駅の情報発信活動を通して長岡市の魅力を市民や地域の人々に伝えると共に、まちの駅の活動を通して駅長やまちの駅のスタッフの方の意識がどう変わったのかを調査し、まちの駅の活動が魅力や活力のある長岡市を実現するために役立っているのかを検証する。



取組の成果と分析結果概要

- 越後長岡まちの駅の情報発信  
様々な活動を通じて情報発信を実現できた。具体的には、パネル展入場者は453名であった。
- 地域づくりへの意識変化の検証(回収数52駅、回収率91.2%)
  - 所在地は旧長岡市 42.3%、旧長岡市以外 57.7%である。施設形態は商業施設 61.5%、その他の施設 38.5%である。
  - 中山間地域や過疎地域が多い旧長岡市以外(合併地域)では、まちの駅が地域内の交流に一役を担っていることが明らかとなった。商業施設の場合、採算の問題もあり、県外イベントへの参加はほとんどみられない。
  - 地域づくりへの関心は、A. 地域活動への興味、B. 地域全体でのまちづくりへの興味、C. 地域の歴史や文化への興味と発信、D. 観光客等への自分の行動が与える影響度合い、のすべてで「まちの駅になる前よりも現在の方が大幅に高まっている」ことが明らかとなった。このような意識変化が長期的には長岡市をより魅力のある活力のある都市にしていこうと思われる。

研究の枠組みと方法

「まちの駅」の歴史と概要  
(文献調査)

過年度調査結果の概要  
(過去4年間の取組の振り返り)

活動内容の検討・決定、活動計画の作成

【今年度の活動】

- 越後長岡まちの駅の情報発信(活動内容)
  - 市内にある「まちの駅(57駅)」の紹介パネル作成(ヒアリング調査、パネル作成、ホームページ作成)
  - パネル展及び商品展示(学園祭でのパネル展実施)
  - 「まちの駅」の食材を使った炊き込みご飯とみそ汁の販売
  - 「まちの駅関連イベント」への参加(県内外の5イベントに、出展・スタッフとしてボランティア参加)
- アンケート調査による地域づくりへの意識変化の検証(調査内容)
  - 「まちの駅」の属性
  - 「まちの駅」としての活動
  - 「まちの駅」の活動による意識変化

成果発表と報告書のとりまとめ



平成23年度 活動報告

グラスルーツグローバルイゼーション  
—草の根・地域からの地球一体化推進—



■ゼミ教員  
広田 秀樹 教授

■ゼミ学生名  
4年生：大槻 翔理 王 慧 高橋 健幸 本間 圭 松永 貴幸  
3年生：吉原 義和 伊丹 彰 内山 慎也 佐藤 友靖 大屋 翔馬 松沢 知生 小川 原玄

ゼミ生の問題意識

多様な課題をかかえながら、急速に進展するグローバルイゼーションの中で、草の根・地域からグローバルイゼーションを平和的に進め、その過程を地域活性化に役立てたい。

基本コンセプト「グラスルーツグローバルイゼーション」

「グラスルーツグローバルイゼーション Grass-roots Globalization (草の根・地域からの地球一体化推進)」という基本コンセプトを考案

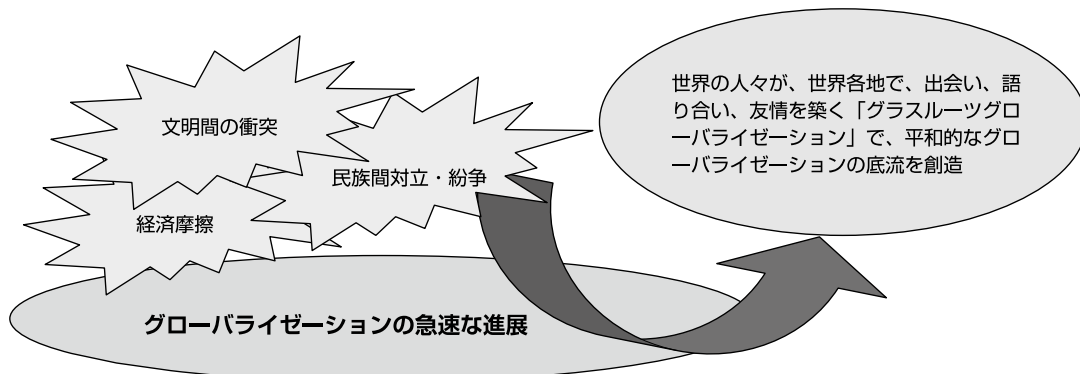
グラスルーツグローバルイゼーションの手法

- ① Study : グローバルイゼーションに関する学習
- ② Invite : 外国人の方等をゼミに招待しての対話・交流
- ③ Visit : 外国人の方が集まる場所等への訪問
- ④ Donate : 学園祭に出店し利益をユニセフに寄付

—アメリカから来られた若者達と長岡市内で交流するゼミ生—



—グローバルイゼーションにおけるグラスルーツグローバルイゼーションの意義—



平成23年度 活動報告

環境教育とエコツーリズム  
—環境NPOの立ち上げとエコツアーから学ぶ—



■ゼミ教員  
吉盛 一郎 教授

■ゼミ学生名  
4年生：周楓 陳強 Tsesendorj Oyunerdene 付盛 彭越 楊旭 劉巧  
3年生：池田 俊明 池田 大樹 岡部 伊織 竹之内 涼司 陳 皓 付翼 渡辺 克政

取組みの目的

1. ゼミ生が中心となって、環境 NPO 法人を立ち上げて、潟湖や河川の清掃活動や環境保全活動を行う。
2. 環境保全活動・環境保全教育推進法について学習する。
3. 「エコツーリズム推進法」について学習する。
4. エコツアープランを提案する。

研究の意義

「環境保全活動、環境保全の意欲の増進及び環境教育」について法が国民や民間団体等への責務を明らかにしたことを学び、さらに「観光振興、地域振興の推進を図ること」を目的とする法の意義を理解する。

主な分析結果

1. 「環境保全活動・環境教育推進法」は、環境保全活動、環境保全の意欲の増進及び環境教育について、国民、民間団体等、国及び地方公共団体の責務であるという。
2. 「エコツーリズム推進法」は、自然環境の保全、観光振興、地域振興の推進を図ることを目的とする。
3. エコツーリズムとは、「自然（歴史文化）体験・学習観光の総称」と定義され、「自然環境や歴史文化を対象とし、それらを体験し学ぶとともに、対象となる地域の自然環境や歴史文化の価値が維持されるよう保全し、価値の向上を図っていく」という考え方である。この考え方を実践するための旅を、「エコツアー」と呼ぶ。



提案

1. 潟湖や河川の清掃活動や保全活動によって、環境教育の実践教育を行う。
2. 環境俳句を詠み、自然を観察することによって保護活動に活かす。
3. エコツアーによって、自然環境・歴史文化を体験し、学び、価値の維持、保全、向上を図り、新しい観光資源の発掘を行い、地域社会での雇用確保による経済波及効果、地域振興に繋げる。

研究の枠組みと方法

- 1 NPO 法人の設立関連の文献をまず研究する。NPO 法人設立のための設立申請の流れは、以下のとおりである。  
情報収集→事前相談→内部議論→設立発起人会（原案作成）→設立総会→申請書の完成→設立認証申請→縦覧（情報公開）→審査（縦覧・不認証の決定）→決定通知の受領→設立登記（法務局）→市・県への設立届
- 2 「環境教育」については、「環境保全活動・環境教育推進法」に定めがあり、国民や民間団体等は、「環境教育を自ら進んで行うよう努める」責務がある旨の規定があり、法はどのように規定しているかについて研究する。
- 3 「エコツーリズム」については「エコツーリズム推進法」にどのように規定されているかについて文献研究する。

調査の枠組み

- 1 「環境教育」について、「環境の保全について理解を深めるために行われる環境の保全に関する教育及び学習」を行う。  
①「環境白書」を参考にして、生物多様性の保全及び持続可能性（絶滅のおそれのある種の保護や野生生物の保護管理、外来種等への対応）、森・里・川・海のつながりを確保する取組みなどについて学習する。  
②環境について俳句を作り、自然を見つめて環境について学ぶ。  
③鳥屋野潟の清掃活動を行う。
- 2 「歴史的建造物・潟湖・温泉」を巡りエコツアープランを考える。

調査の概要

- 1 長岡市周辺のエコツアープラン「温泉・歴史的建造物・河川を巡る観光」  
蓬平温泉→撰田屋（酒・味噌・醤油の醸造蔵元や歴史的建造物）→寺泊商店街→信濃川（バードウォッチング）→弥彦神社
- 2 新潟市周辺のエコツアープラン「歴史文化・温泉・潟湖を巡る観光」  
岩室温泉→佐潟（バードウォッチング）→鳥屋野潟→福島潟→月岡温泉





平成23年度 活動報告

セーフコミュニティへの出発  
—いのちを大切にすまちづくり—

ゼミ教員

菊池 いづみ 准教授

ゼミ生名

4年生：石月 美沙世 小出 祐也 齋藤 優穂 佐久間 瑞樹 高野 広大 角田 実佳 古川 輝明  
三浦 茜 宗村 芳成  
3年生：池亀 紗貴 池田 貴浩 袁 楽輝 小川 成美 笠原 由佑 齋藤 拓也 高橋 祐太  
多田 亮太 丸山 夏樹 山崎 翔子

取組みの目的

スウェーデンの地方都市で始まった住民参加のまちづくりは、日常生活の安全を確保することによって人々の大切ないのちを守る「セーフコミュニティ」活動として日本でも取組が始まっている。本研究では、長岡地域の高齢者と子どもを対象として、不慮の事故（生活環境）による外傷の要因を社会調査によってつきとめ、予防策を提案する。特にリスクの高い認知症高齢者の安全をまもる実践活動を展開する。

研究の意義

リスクの高い高齢者と子どもの安心・安全を守り、いのちを大切にすまちづくりを実現できる。ひいては長岡地域の活性化につながる。また、波及効果として、少子高齢社会の重要課題である医療・介護など社会保障費の負担軽減が期待できる。

主な分析結果

家庭内の不慮の事故

・過去1年間にけがをしたことがある：高齢者-12人に1人。子ども-4人に1人。・今後1年以内にけがをする不安を感じている：高齢者-3割弱。子どもの保護者-5割弱。・不安を感じている場所（上位4位）：高齢者-階段、庭、玄関、浴室。子どもの保護者-階段、駐車場、台所、浴室。・不安の内容：高齢者-階段の踏み外し、段差によるつまずき、転倒など。子どもの保護者-転落、車庫入れの死角、飛び出し、溺水、熱湯、ガス、調理器具など。

外出時の不慮の事故

・過去1年間にけがをしたことがある：高齢者-13.5人に1人、子ども-4人に1人。・今後1年以内にけがをする不安を感じている：高齢者-3人に1人。子どもの保護者-7割強。・不安の内容：高齢者-車の運転、歩道を走る自転車、道路の段差、もらい事故など。子どもの保護者-交通ルールがわからない、飛び出し、知らない人についていく、川での事故など。

近所づきあい

・困ったときは相談したり、協力したりしている：高齢者-65.1%。子どもの保護者-34.6%。  
・近所づきあいは大切だと思う（+まあそう思う）：高齢者-99.1%。子どもの保護者-96.1%。

セーフコミュニティ活動

・セーフコミュニティ活動の考え方（事故は偶然におきるのではなく予防できる）に賛成（+どちらかといえば賛成）：高齢者-83.5%。子どもの保護者-86.9%。・市が積極的に取り組んだ方がよいと思うSC活動（上位3位）：高齢者-災害対策、交通安全、犯罪対策。子どもの保護者-交通安全、犯罪対策、災害対策。参加したいと思うSC活動：高齢者-災害対策、交通安全、犯罪対策。子どもの保護者-交通安全、災害対策、学校での安全安心推進。

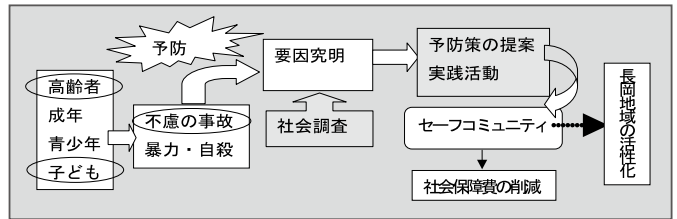


提案：セーフコミュニティへの出発  
—いのちを大切にすまちづくり

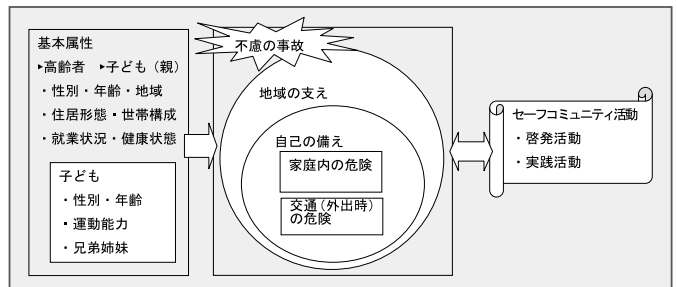
- 高齢者のいのちを守るために：▶家庭内の注意スポット-階段、庭、玄関、浴室 ▶住環境整備のポイント-段差解消、段差には注意喚起の工夫 ▶つまずき・転倒の要因除去-環境（バリアフリー）と個人の両側 ▶個人の心がけ-体力維持・増強、時間的なゆとり etc.
- 子どものいのちを守るために：▶家庭内の注意スポット-階段、駐車場、台所、浴室 ▶住環境整備のポイント-危険な物の収納や注意喚起の工夫 ▶危険に対する教育-家庭と社会で ▶保護者の心がけ-言い聞かせ・危険な場所では目を離さない etc.
- コミュニティの再生-近所づきあいの見直し：大切と認めていても、相談や協力はしていない人が多い。▶いざという時のために、日頃から交流を深めておく必要がある。→ 家族ぐるみで参加できる地域のイベントを企画する。▶子どもの保護者の交流を増やす必要がある。→ きっかけとして、近所の人が利用できるサイトを作る。
- セーフコミュニティ活動の推進：考え方に賛成でも、セーフコミュニティ活動を知らない人が多い。▶高齢者施設・小学校・幼稚園・保育園などで普及啓発する。▶意識の高かった活動（交通安全の推進・犯罪対策・災害対策）を手始めに多くの人が参加したいと思える活動を企画する。

→ 一例）雪下ろしのボランティア活動

研究の枠組みと方法

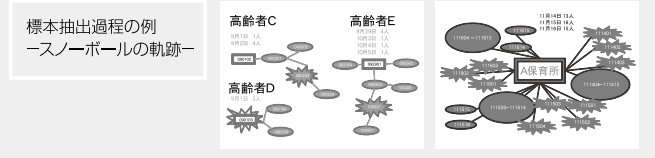


調査の枠組み



調査の概要

調査名：「高齢者と子どもの不慮の事故に関する実態調査」  
調査の目的：家庭内や外出時の不慮の事故による外傷の要因をつきとめ、予防策を提案するとともに、セーフコミュニティ活動に対する意識を明らかにする。  
調査期間：2011年8月～12月  
調査方法：高齢者・子ども（小学生を除く）の保護者個別面接調査（調査票調査）  
小学生の保護者-担任の先生を通して配票・回収（自記式・調査票調査）  
調査対象者：長岡市に在住するおおむね65歳以上の高齢者とおおむね5歳から9歳の子どもの保護者  
標本抽出方法：スノーボール・サンプリング法ほか  
調査項目：家庭内の事故について/外出時の事故について/近所づきあいについて/セーフコミュニティ活動について/基本属性（性別、年齢、住まいの地域、住居形態、世帯構成、職業、健康状態）/子どもの年齢ほか  
回収結果：有効回収数 239票（高齢者-109票、子どもの保護者-130票）



4つの実践活動 —その2—

長岡大学 悠久祭 イベント  
学生参加による  
認知症サポーター養成講座

—その1—  
すこやか・ともしびまつり  
ボランティアスタッフ

**平成23年度 活動報告**
**企業の情報発信とホームページの役割  
 —コンテンツ診断—**

**ゼミ教員**  
 原田 誠司 教授

**ゼミ学生名**  
 3年生：◎侯 偉 幸田 直樹 孫 囡  
 張 航 李 灿 張 許鑫

**取組みの目的**

ホームページは企業の情報発信や取引にとって重要な役割を担っている。我々は、NAZE と連携して、NAZE 会員企業のホームページ、とくに情報内容（コンテンツ）を診断し、改善提案を行い、ホームページの改善を通して、診断企業の情報発信力の充実・強化に役立てていただくこととした。

**研究の意義**

この調査研究は、企業にとっては若者=学生の目からみたホームページの改善方向がわかり、参加学生にとっては、この調査研究を通して、企業研究による調査能力や社会人基礎力の向上を図ることができる。

**主な分析結果**

- <サカタ製作所>**→①会社概要—売上高・利益が未掲載。  
 ②沿革・理念等—沿革はよい。経営理念・社是は説明が必要。  
 ③仕事概要・環境—仕事概要はよい。環境はもっと丁寧に。
- <毛利製作所>**→①会社概要—売上高・利益が未掲載。②理念等—理念が未掲載。③事業概要—加工とレリーフ部門が分かりにくい。  
 ④仕事環境・採用情報—説明があまりされていない。
- <オオイ>**→①会社概要—売上高・利益が未掲載。  
 ②沿革・理念等—明示されていない。  
 ③事業概要—強みの掲載が不十分。④仕事環境・採用情報—未掲載。


**◆提案と改善◆**
**<サカタ製作所への改善提案>**

- A 改善提案・・・売上高・利益の掲載、経営理念・戦略の説明掲載、仕事環境・採用情報の充実を提案した。  
 B 改善・・・上記提案を受けて、現在、本提案以上に、すでに改善されている。感謝しています。

**<毛利製作所への改善提案>**

- A 改善提案・・・売上高・利益、経営理念・社是等（説明含む）のホームページへの掲載、事業概要は加工部門とレリーフ部門に分けて整理する、仕事環境・採用情報の掲載・充実を提案した。  
 B 改善・・・現在、企業で検討中である。

**<オオイへの改善提案>**

- A 改善提案・・・売上高・利益の掲載、経営理念・社是等の掲載（立派な社是あり）、事業概要は品質等自社の強みを明確に、仕事環境・採用情報の掲載・充実を提案した。  
 B 改善・・・現在、企業で検討中である。

**研究の枠組みと方法**

ホームページ診断は大きく、情報内容（コンテンツ）とシステム（機能）の2つに分けて評価した。コンテンツ診断は原田ゼミナール、システム診断は村山ゼミナールが担当した。

コンテンツについては、企業の情報内容が正しく取引相手や応募希望者に正しく伝えられるよう作成されているか、を、企業研究シートに記入して、診断シート作成により診断・評価する。

診断・評価は、公正に行うため、6名のゼミ学生がそれぞれ企業研究シートと診断シートを作成し、総括して、アウトプットを集約した。

**調査の枠組み**

- ・調査対象企業・・・NAZE会員企業の株式会社サカタ製作所、有限会社毛利製作所、株式会社オオイの3社とした。
  - ・調査項目・方法・・・両社のホームページや公表資料を見て、以下の項目について、企業研究シート、診断シートを作成、評価した。
- ① 会社概要等—会社名、代表者名、売上高、資本金、利益
  - ② 沿革・理念・戦略等—沿革、理念、戦略、目標
  - ③ 事業概要—主な事業・商品、主な顧客、主な提供方法
  - ④ 仕事環境人事制度、仕事概要、仕事紹介、社風
  - ⑤ 採用情報—募集職種、勤務条件、応募方法、求める人材像

**調査の概要**

- ・3つのゼミで、対象企業のホームページを分担して調査し、診断項目に現状を書き込む。
- ・参加学生メンバーが各項目ごとに、評価点をつけて、合計と平均を算出する。
- ・現状評価と診断評価点を見比べて、どこを改善すべきか整理する。
- ・改善点等を調査企業の社長に報告する。
- ・会社側の改善点党への回答および改善結果を把握する。
- ・調査結果は、NAZE 会員にも情報提供を行う（総会で発表）。



平成23年度 活動報告

企業の情報発信とホームページの役割  
— システム診断 —



ゼミ教員

村山 光博 准教授

ゼミ学生名

4年生：池田 敬一朗 菊池 拓也 竹田 隼人 笛木 香央里 山田 亮 吉田 陽平  
3年生：王 逸飛 小林 拓斗 高橋 新二 陳 夢洋 長津 貴幸 西山 大輝 彭 晶晶 堀 賢人

取組みの目的

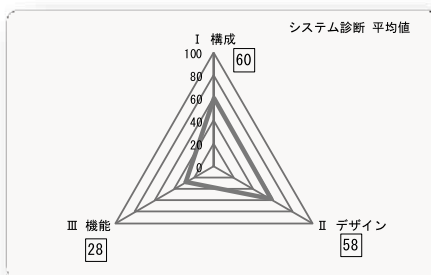
- 企業の情報発信の一つの手段としてのホームページの役割とあり方を検討する。
- 企業ホームページをシステム面から評価するための手法を構築する。
- 企業の情報（コンテンツ）をより効果的に発信するためのホームページシステムの改善案を策定する。

システム診断例

株式会社オオイ トップページ



株式会社オオイ ホームページのシステム診断結果



平成23年度 研究の流れ

① 長岡産業活性化協会 NAZE 訪問

NAZE 会員企業の現状をヒアリング

② 企業ヒアリング

(有)毛利製作所, (株)サカタ製作所, (株)オオイ

③ 企業ホームページのシステム診断

(有)毛利製作所, (株)サカタ製作所, (株)オオイ

④ システム診断結果の分析

集計結果により、表およびグラフを作成

⑤ 改善提案

結果の分析、改善案の策定



有限会社毛利製作所 工場見学



株式会社サカタ製作所 工場見学



株式会社オオイ 工場見学



株式会社オオイ 改善提案例

- ページの上部に日本語の社名をロゴ表示したほうが良い。
- フレーム機能は不具合が多いので、使わないほうが良い。
- メニューは上部に横で配置したほうが使いやすい。
- 掲載している写真にもう少し説明を加えたほうが良い。
- ボタンやテキスト（文字）にハイパーリンクが設定されている部分の区別がつきにくいので、全体的に設定を見直したほうが良い。
- 段落と文字の配置を工夫したほうが良い。
- 表は、項目欄に色をつけて見やすくしたほうが良い。
- 「工事中」の表示は避けたほうが良い。
- 問い合わせ先を明記してはどうか。



平成 23年度 活動報告

新潟県内企業における財務経営診断  
—食料品業界二社による財務経営診断—

■ゼミ教員

田邊 正 専任講師

■ゼミ学生名

4年生：八木 雄大 東條 昌美 渡辺 翔太 坂井 良成 渡部 耕士 斉藤 俊輔  
3年生：三五 峻 飯沼 直樹 高橋 健 小川 あんり 大野 由梨奈 入澤 凌

取組みの目的

新潟県内には四十一社の上場企業が存在している。この数字は他県と比較すると人口に対して比較的多いと思われる。そこで、食品業界のうち米菓製造業の大手である亀田製菓と岩塚製菓を採りあげて有価証券報告書にもとづいて財務分析をしてみた。そこから学生なりの提案を試みる。

研究の意義

学生にとって有価証券報告書をじっくりと読むことは少ないと思われる。したがって、有価証券報告書にどのようなことを記載しているのかを学生なりに知ることが第一の目的である。そこで、収益性分析、安全性分析、効率性分析、成長性分析の四グループに分類し、有価証券報告書にもとづいて学生各自が財務分析を行う。そして、その数値がどういう意味をもっているのかを検討することによって数値のもっている意味というものも認識する。

主な分析結果

亀田製菓と岩塚製菓による財務分析では、安全性分析では亀田製菓を上回っているように分析される部分もある。しかし、これは Want China Holding Limited の株式によるものであって正確な数値は示していない。また、収益性分析、効率性分析、成長性分析では、岩塚製菓よりも亀田製菓のほうが良好であることが解った。しかし、両社のブランドイメージから、ここまで分析結果に差があることは予測できなかったであろう。



財務分析結果からの検討と  
経営的提案

1、ブランド戦略の構築

亀田製菓は岩塚製菓の約四倍の売上高である。また、近年、三幸製菓に岩塚製菓は抜かれ第三位のシェアに甘んじている。これは、主力商品が岩塚製菓にないという原因によるものであり、魅力的な商品を開発しなければならない。ブランド戦略の構築が重要視されると考えられる。

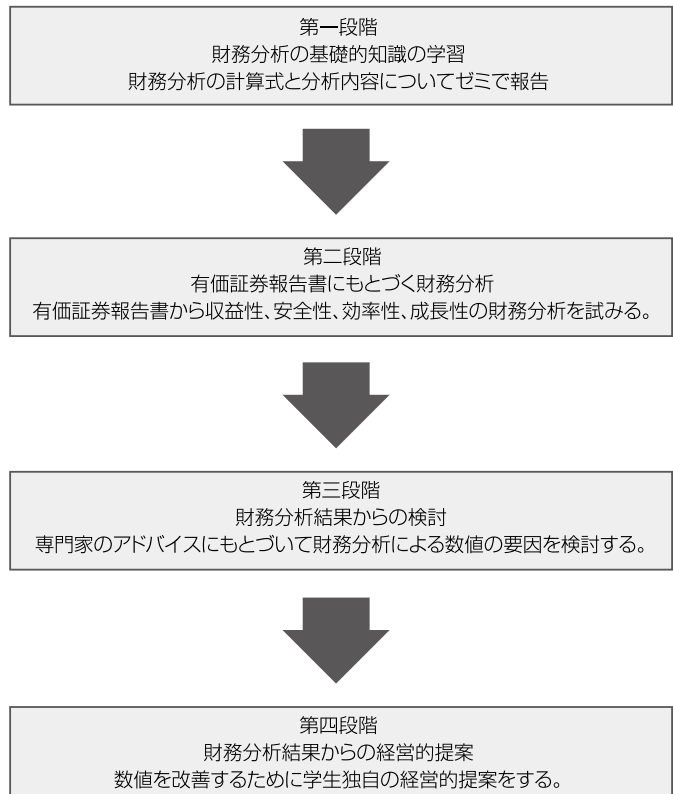
2、資金繰りの問題点

岩塚製菓は短期借入金の金額が平成 18 年度 800,000 千円から平成 22 年度 4,250,000 千円と五倍以上に増加していることから、資金繰りに若干の問題があるようである。よって、チャイナパブルがまじける前に、Want China Holding Limited の株式を如何に活用するかが鍵となる。

3、数値の安定による懸念

亀田製菓の財務分析による数値が安定していることが解ったが、あまりにも数値が安定しているため、ある意味別の懸念がある。

研究の流れ目的





## 平成23年度 学生による地域活性化プログラム中間発表会

11月26日(土)、本学にて、平成23年度学生による地域活性化プログラムの中間発表会が開催されました。各ゼミナールの報告後、学外の地域連携アドバイザー方々から質問や有益な助言を頂きました。

これを受けて、各ゼミとも来年2月の成果発表会に向けて取りまとめを行います。

なお、今年度の成果発表会はホテルニューオータニ長岡NCホールで、平成24年2月25日(土)に開催されます。

### <菊池 いづみゼミ>

セーフコミュニティへの出発  
—いのちを大切にすまちづくり—



### <鯉江 康正ゼミ>

越後長岡まちの駅の情報発信と  
地域づくりへの意識変化の検証



### <高橋 治道ゼミ>

地域の資産を生かした絆づくり  
—地域の魅力再発見—



### <田邊 正ゼミ>

新潟県内企業における経営財務診断  
—食料品業界二社の経営財務診断—



### <原田 誠司ゼミ>

企業の情報発信とホームページの役割  
(コンテンツ診断)



### <村山 光博ゼミ>

企業の情報発信とホームページの役割  
(システム診断)



### <広田 秀樹ゼミ>

グラスルーツグローバルイノベーション  
—草の根・地域からの地球一体化推進—



### <吉盛 一郎ゼミ>

環境教育とエコツーリズム  
—環境NPO立ち上げとエコツアーから学ぶ—



長岡大学

# 学生による地域活性化プログラム 平成23年度 成果発表会



昨年度の成果発表会

**日時** 平成24年 **2月25日(土)** 13:00~17:00(12:30受付開始)

**会場** ホテルニューオータニ長岡「NCホール」

**定員** **250名** 申込締切/2月20日(月)

※申込順に受付け。定員になり次第締め切ります。

**入場無料**

## お申し込み・お問合せ

長岡大学 地域活性化プログラム(担当：山田) 〒940-0828 新潟県長岡市御山町80-8  
TEL:0258-39-1600 FAX:0258-39-9566  
<http://www.nagaokauniv.ac.jp> E-mail: [yamada@nagaokauniv.ac.jp](mailto:yamada@nagaokauniv.ac.jp)

◆主催/長岡大学

◆後援/長岡市・長岡市教育委員会・長岡商工会議所・創にいがた産業創造機構  
NPO法人 長岡産業活性化協会NAZE



# 長岡大学

## 学生による地域活性化プログラム 平成23年度 成果発表会

### Program

- ◆高橋 治道ゼミ：地域の資産を生かした絆づくりー地域の魅力再発見ー
- ◆鯉江 康正ゼミ：越後長岡まちの駅の情報発信と地域づくりへの意識変化の検証
- ◆広田 秀樹ゼミ：グラスルーツグローバルイノベーションー草の根・地域からの地球一体化推進ー
- ◆吉盛 一郎ゼミ：環境教育とエコツーリズムー環境NPOの立ち上げとエコツアーから学ぶー
- ◆菊池いづみゼミ：セーフコミュニティへの出発ーいのちを大切にすまちづくりー

～ 休憩 ～

- ◆原田 誠司ゼミ：企業の情報発信とホームページの役割(コンテンツ診断)
- ◆村山 光博ゼミ：企業の情報発信とホームページの役割(システム診断)
- ◆田邊 正 ゼミ：新潟県内企業における経営財務診断ー食品業界二社の経営財務診断ー
- ◆米菓研究チーム：新潟県における米菓産業の歴史的発展プロセス

〈総評〉 長岡市市長政策室政策企画課長 渡辺 則道氏  
(株)ホクギン経済研究所副所長 河田 博 氏

平成24年 **2月25日(土)** 13:00~17:00(12:30受付開始)

**ホテルニューオータニ長岡「NCホール」**

※ホテル及び周辺駐車場は有料駐車場のみです。公共交通機関をご利用下さい。

お申込み

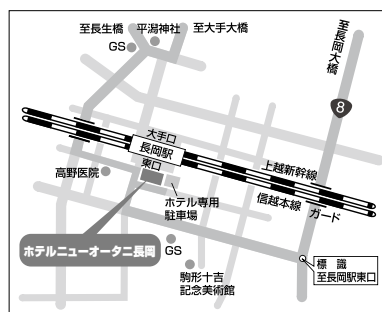
FAX・E-mail・電話・ホームページでお申込み下さい。先着順の受付となります。  
**TEL:0258-39-1600 FAX:0258-39-9566**  
**http://www.nagaokauniv.ac.jp**  
**E-mail:yamada@nagaokauniv.ac.jp**

※Eメールでご連絡を下さった方には必ず当方より連絡を差し上げます。  
 連絡がない場合はお手数ですが、再度お申込み下さい。  
 ※FAXの場合は、切り取らずに送信して下さい。  
 ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。

お問合せ

**長岡大学 地域活性化プログラム**(担当:山田)  
 〒940-0828 新潟県長岡市御山町80-8

申込締切/2月20日(月)



氏名			
連絡先	〒		
電話番号		F A X	
E-mail			

学生による地域活性化プログラム  
**平成 23 年度 成果発表会**

平成 24 年 2 月 25 日（土）、ホテルニューオータニ長岡 NC ホールにおいて、長岡大学生による地域活性化プログラム平成 23 年度成果発表会を実施いたしました。参加者は 178 名（地域連携アドバイザー 14 名、一般 40 名、本学教職員 31 名、学生 93 名）でした。

会場が学外ということもあり、11 月に学内で実施した中間発表会の時以上に学生は緊張していたようです。各ゼミとも中間発表会で指摘された改善点や意見を取り入れ、長岡地域の活性化をテーマに、9 取組（プログラム参加発表 8 ゼミ＋一般学生発表 1 取組）が成果発表を行いました。地域連携アドバイザーから、反省点、実施できなかったこと、次年度に向けての方向性など、たくさんの質問や貴重なアドバイスをいただきました。このような活動を通じて学生の社会人基礎力は大幅に向上したと思われる。

また、地域連携アドバイザーからは、年々調査研究活動の水準は高まっており、今後とも継続的に活動されることを期待しておりますとの、お言葉をいただきました。次年度も引き続き学生による地域活性化プログラムを計画しており、学生が地域人として活躍できるものと期待しております。



<発表順>

- 高橋 治道ゼミ : 地域の資産を生かした絆づくりー地域の魅力再発見ー
- 鯉江 康正ゼミ : 越後長岡まちの駅の情報発信と地域づくりへの意識変化の検証
- 広田 秀樹ゼミ : グラスルーツグローバリゼーションー草の根・地域からの地球一体化推進ー
- 吉盛 一郎ゼミ : 環境教育とエコツーリズムー環境 NPO の立ち上げとエコツアーから学ぶー
- 菊池 いつみゼミ : セーフコミュニティへの出発ーいのちを大切にすまちづくりー
- 原田 誠司ゼミ : 企業の情報発信とホームページの役割（コンテンツ診断）
- 村山 光博ゼミ : 企業の情報発信とホームページの役割（システム診断）
- 田邊 正 ゼミ : 新潟県内企業における経営財務診断ー食料品業界二社の経営財務診断ー



学生による地域活性化プログラム平成23年度 成果発表会



- ① 高橋 治道ゼミ : 地域の資産を生かした絆づくり ―地域の魅力再発見
- ② 鯉江 康正ゼミ : 越後長岡まちの駅の情報発信と地域づくりへの意識変化の検証
- ③ 広田 秀樹ゼミ : グラスルーツグローバルイゼーション  
―草の根・地域からの地球一体化推進―



- ④ 吉盛 一郎ゼミ : 環境教育とエコツーリズム  
―環境 NPO 立ち上げとエコツアーから学ぶ―
- ⑤ 菊池いづみゼミ : セーフコミュニティへの出発  
―いのちを大切にすまちづくり―



- ⑥ 原田 誠司ゼミ : 企業の情報発信とホームページの役割 (コンテンツ診断)
  - ⑦ 村山 光博ゼミ : 企業の情報発信とホームページの役割 (システム診断)
  - ⑧ 田邊 正 ゼミ : 新潟県内企業における経営財務診断  
―食料品業界二社の経営財務診断―
- この他に地域活性化プログラム外の米業研究チームが発表を行いました。

市長政策室政策企画課  
課長 渡辺 則道 氏



株式会社ホクギン経済研究所  
副所長 河田 博 氏



最後に、総合アドバイザーから総評をいただきました。

1年間ありがとうございました。

参考資料 4

学籍 番号		学生 氏名	
----------	--	----------	--

社会人基礎力診断シート（学生用）

本取組（地域活性化の取組）について、各質問の該当する番号に○をつけてください。

ア ク シ ョ ン	[主体性] あなたは、進んで取り組みましたか。 1. 進んで取り組んだ      2. あまり進んで取り組めなかった 3. 取り組めなかった
	[働きかけ力] あなたは、取組の実施にあたって他の人に働きかけましたか。 1. 積極的に働きかけた      2. あまり働きかけられなかった 3. ほとんど働きかけなかった
	[実行力] あなたは、取組を確実に実行できましたか 1. 確実に実行できた      2. あまり実行できなかった 3. ほとんど実行できなかった
	取組前と比較して、アクション力（主体性、働きかけ力、実行力）は、上昇したと思えますか。 1. 上昇した      2. あまり上昇しなかった      3. ほとんど変化がなかった
シ ン キ ン グ	[課題発見力] あなたは、課題を明らかにできましたか。 1. 明らかにできた      2. あまり明らかにできなかった 3. ほとんど明らかにできなかった
	[計画力] あなたは、課題解決の準備ができましたか 1. 準備できた      2. あまり準備できなかった 3. ほとんど準備できなかった
	[創造力] あなたは、新しいアイデアを出せましたか。 1. 十分出せた      2. あまり出せなかった      3. ほとんど出せなかった
	取組前と比較して、シンキング力（課題発見力、計画力、創造力）は、上昇したと思えますか。 1. 上昇した      2. あまり上昇しなかった      3. ほとんど変化がなかった
チ ー ム ワ ー ク	[発信力] あなたは、自分の意見を相手に伝えられましたか。 1. 十分伝えられた      2. あまり伝えられなかった 3. ほとんど伝えられなかった
	[傾聴力] あなたは、相手の意見を聞けましたか。 1. 十分聞けた      2. あまり聞けなかった      3. ほとんど聞けなかった
	[柔軟性] あなたは、意見の違いなどを理解しましたか。 1. 十分理解した      2. あまり理解しなかった      3. ほとんど理解しなかった
	[状況判断力] あなたは、周囲の人や物事との関係を良く理解しましたか。 1. 十分理解した      2. 一定に理解した      3. ほとんど理解しなかった
	[規律性] あなたは、ルールや約束を守りましたか。 1. 守った      2. あまり守れなかった
	[ストレスコントロール力] あなたは、ストレスをうまく解消できましたか。 1. うまく解消できた      2. あまり解消できなかった
	取組前と比較して、チームワーク力（発進力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力）は、上昇したと思えますか。 1. 上昇した      2. あまり上昇しなかった      3. ほとんど変化がなかった

（資料）長岡大学「長岡地域若者キャリア育成事業報告書」（平成 19 年 3 月）をもとに作成

参考資料 5

学籍番号		学生氏名	
------	--	------	--

社会人基礎力診断シート（教員用）

本取組（地域活性化の取組）について、各質問の該当する番号に○をつけてください。

ア ク シ ョ ン	[主体性] この学生は、進んで取り組みましたか。 1. 進んで取り組んだ      2. あまり進んで取り組めなかった 3. 取り組めなかった
	[働きかけ力] この学生は、取組の実施にあたって他の人に働きかけましたか。 1. 積極的に働きかけた      2. あまり働きかけられなかった 3. ほとんど働きかけなかった
	[実行力] この学生は、取組を確実に実行できましたか 1. 確実に実行できた      2. あまり実行できなかった 3. ほとんど実行できなかった
	取組前と比較して、アクション力（主体性、働きかけ力、実行力）は、上昇したと思えますか。 1. 上昇した      2. あまり上昇しなかった      3. ほとんど変化がなかった
シ ン キ ン グ	[課題発見力] この学生は、課題を明らかにできましたか。 1. 明らかにできた      2. あまり明らかにできなかった 3. ほとんど明らかにできなかった
	[計画力] この学生は、課題解決の準備ができましたか 1. 準備できた      2. あまり準備できなかった 3. ほとんど準備できなかった
	[創造力] この学生は、新しいアイデアを出せましたか。 1. 十分出せた      2. あまり出せなかった      3. ほとんど出せなかった
	取組前と比較して、シンキング力（課題発見力、計画力、創造力）は、上昇したと思えますか。 1. 上昇した      2. あまり上昇しなかった      3. ほとんど変化がなかった
チ ー ム ワ ー ク	[発信力] この学生は、自分の意見を相手に伝えられましたか。 1. 十分伝えられた      2. あまり伝えられなかった 3. ほとんど伝えられなかった
	[傾聴力] この学生は、相手の意見を聞きましたか。 1. 十分聞けた      2. あまり聞けなかった      3. ほとんど聞けなかった
	[柔軟性] この学生は、意見の違いなどを理解しましたか。 1. 十分理解した      2. あまり理解しなかった      3. ほとんど理解しなかった
	[状況判断力] この学生は、周囲の人や物事との関係を良く理解しましたか。 1. 十分理解した      2. 一定に理解した      3. ほとんど理解しなかった
	[規律性] この学生は、ルールや約束を守りましたか。 1. 守った      2. あまり守れなかった
	[ストレスコントロール力] この学生は、ストレスをうまく解消できましたか。 1. うまく解消できた      2. あまり解消できなかった
	取組前と比較して、チームワーク力（発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力）は、上昇したと思えますか。 1. 上昇した      2. あまり上昇しなかった      3. ほとんど変化がなかった

（資料）長岡大学「長岡地域若者キャリア育成事業報告書」（平成19年3月）をもとに作成

平成 23 年度「地域活性化プログラム成果発表会」意見シート

2011. 2. 25 (土)

本シートは、学生の「ビジネス展開能力」を判断するもので、各取組の優劣を判断するものではありません。したがって、忌憚のないご意見をお願いいたします。

各質問の該当する番号に○をつけてください。

<あなたの所属を教えてください>

- |               |          |         |          |
|---------------|----------|---------|----------|
| 1. 地域連携アドバイザー | 2. 一般参加者 | 3. 本学学生 | 4. 本学教職員 |
| 5. その他 ( )    |          |         |          |

高橋治道ゼミ：地域の資産を生かした絆づくり

—地域の魅力再発見—

- |   |
|---|
| Q 1 取組テーマ (タイトル) と内容は合致しておりましたか。<br>1. 合致していた 2. あまり合致していなかった 3. 合致していなかった                    |
| Q 2 この取組に興味をもてましたか。<br>1. 興味がある 2. どちらかといえば、興味がない   |
| Q 3 学生の取組としてどのように評価できますか。感想をお聞かせください。<br>1. 非常に素晴らしい 2. 素晴らしい<br>3. やや物足りない 4. 大学生のレベルに達していない |
| Q 4 発表の仕方はどう感じましたか。<br>1. 非常に優れていた 2. 優れていた 3. やや問題あり 4. 問題外                                  |
| Q 5 本取組に対するご意見をご自由にお書きください。   |



**鯉江康正ゼミ：越後長岡まちの駅の情報発信と**

**地域づくりへの意識変化の検証**

- |   |
|---|
| Q 1 取組テーマ（タイトル）と内容は合致しておりましたか。<br>1. 合致していた 2. あまり合致していなかった 3. 合致していなかった                      |
| Q 2 この取組に興味がもてましたか。<br>1. 興味がある 2. どちらかといえば、興味がない   |
| Q 3 学生の取組としてどのように評価できますか。感想をお聞かせください。<br>1. 非常に素晴らしい 2. 素晴らしい<br>3. やや物足りない 4. 大学生のレベルに達していない |
| Q 4 発表の仕方はどう感じましたか。<br>1. 非常に優れていた 2. 優れていた 3. やや問題あり 4. 問題外                                  |
| Q 5 本取組に対するご意見をご自由にお書きください。   |

**広田秀樹ゼミ：グラスルーツグローバリゼーション**

**一草の根・地域からの地球一体化推進**

- |   |
|---|
| Q 1 取組テーマ（タイトル）と内容は合致しておりましたか。<br>1. 合致していた 2. あまり合致していなかった 3. 合致していなかった                      |
| Q 2 この取組に興味がもてましたか。<br>1. 興味がある 2. どちらかといえば、興味がない   |
| Q 3 学生の取組としてどのように評価できますか。感想をお聞かせください。<br>1. 非常に素晴らしい 2. 素晴らしい<br>3. やや物足りない 4. 大学生のレベルに達していない |
| Q 4 発表の仕方はどう感じましたか。<br>1. 非常に優れていた 2. 優れていた 3. やや問題あり 4. 問題外                                  |
| Q 5 本取組に対するご意見をご自由にお書きください。   |

**吉盛一郎ゼミ：環境教育とエコツーリズム**

**—環境NPOの立ち上げとエコツアーから学ぶ—**

- |   |
|---|
| Q 1 取組テーマ（タイトル）と内容は合致しておりましたか。<br>1. 合致していた 2. あまり合致していなかった 3. 合致していなかった                      |
| Q 2 この取組に興味をもてましたか。<br>1. 興味がある 2. どちらかといえば、興味がない   |
| Q 3 学生の取組としてどのように評価できますか。感想をお聞かせください。<br>1. 非常に素晴らしい 2. 素晴らしい<br>3. やや物足りない 4. 大学生のレベルに達していない |
| Q 4 発表の仕方はどう感じましたか。<br>1. 非常に優れていた 2. 優れていた 3. やや問題あり 4. 問題外                                  |
| Q 5 本取組に対するご意見をご自由にお書きください。   |

**菊池いづみゼミ：セーフコミュニティへの出発**

**—いのちを大切にすまちづくり—**

- |   |
|---|
| Q 1 取組テーマ（タイトル）と内容は合致しておりましたか。<br>1. 合致していた 2. あまり合致していなかった 3. 合致していなかった                      |
| Q 2 この取組に興味をもてましたか。<br>1. 興味がある 2. どちらかといえば、興味がない   |
| Q 3 学生の取組としてどのように評価できますか。感想をお聞かせください。<br>1. 非常に素晴らしい 2. 素晴らしい<br>3. やや物足りない 4. 大学生のレベルに達していない |
| Q 4 発表の仕方はどう感じましたか。<br>1. 非常に優れていた 2. 優れていた 3. やや問題あり 4. 問題外                                  |
| Q 5 本取組に対するご意見をご自由にお書きください。   |

原田誠司ゼミ：企業の情報発信とホームページの役割（コンテンツ診断）	
Q 1	取組テーマ（タイトル）と内容は合致しておりましたか。 1. 合致していた 2. あまり合致していなかった 3. 合致していなかった
Q 2	この取組に興味をもてましたか。 1. 興味がある 2. どちらかといえば、興味がない
Q 3	学生の取組としてどのように評価できますか。感想をお聞かせください。 1. 非常に素晴らしい 2. 素晴らしい 3. やや物足りない 4. 大学生のレベルに達していない
Q 4	発表の仕方はどう感じましたか。 1. 非常に優れていた 2. 優れていた 3. やや問題あり 4. 問題外
Q 5	本取組に対するご意見をご自由にお書きください。

村山光博ゼミ：企業の情報発信とホームページの役割（システム診断）	
Q 1	取組テーマ（タイトル）と内容は合致しておりましたか。 1. 合致していた 2. あまり合致していなかった 3. 合致していなかった
Q 2	この取組に興味をもてましたか。 1. 興味がある 2. どちらかといえば、興味がない
Q 3	学生の取組としてどのように評価できますか。感想をお聞かせください。 1. 非常に素晴らしい 2. 素晴らしい 3. やや物足りない 4. 大学生のレベルに達していない
Q 4	発表の仕方はどう感じましたか。 1. 非常に優れていた 2. 優れていた 3. やや問題あり 4. 問題外
Q 5	本取組に対するご意見をご自由にお書きください。

田邊 正ゼミ：新潟県内企業における経営財務診断 —食料品業界二社の経営財務診断—	
Q 1	取組テーマ（タイトル）と内容は合致しておりましたか。 1. 合致していた 2. あまり合致していなかった 3. 合致していなかった
Q 2	この取組に興味をもてましたか。 1. 興味がある 2. どちらかといえば、興味がない
Q 3	学生の取組としてどのように評価できますか。感想をお聞かせください。 1. 非常に素晴らしい 2. 素晴らしい 3. やや物足りない 4. 大学生のレベルに達していない
Q 4	発表の仕方はどう感じましたか。 1. 非常に優れていた 2. 優れていた 3. やや問題あり 4. 問題外
Q 5	本取組に対するご意見をご自由にお書きください。

《一般学生発表》

米菓研究チーム：新潟県における米菓産業の歴史的発展プロセス	
Q 1	取組テーマ（タイトル）と内容は合致しておりましたか。 1. 合致していた 2. あまり合致していなかった 3. 合致していなかった
Q 2	この取組に興味をもてましたか。 1. 興味がある 2. どちらかといえば、興味がない
Q 3	学生の取組としてどのように評価できますか。感想をお聞かせください。 1. 非常に素晴らしい 2. 素晴らしい 3. やや物足りない 4. 大学生のレベルに達していない
Q 4	発表の仕方はどう感じましたか。 1. 非常に優れていた 2. 優れていた 3. やや問題あり 4. 問題外
Q 5	本取組に対するご意見をご自由にお書きください。